



<大会レポート>

富県共創！活力とやすらぎの邦 宮城
～第61回都市計画全国大会に参加して～

平成21年11月5日から6日まで、第61回都市計画全国大会が宮城県仙台市で開催されました。全国から約330名が集まり、意見・情報交換が行われました。

【1日目】

○主報告

「都市行政をめぐる最近の動きについて」

- ・地域住民
- ・企業等によるまちづくり事業
- ・活動への国からの支援が強化される。
- ・都市を巡る社会情勢の変化（人口減、高齢化社会、景気衰退）により今までの新規建設主体な都市政策からの大きな転換が必要である。
- ・都市内の拠点に都市機能
- ・生活機能を集約させ、経済、環境等の面で維持可能な都市を実現させる必要がある。「集約型都市構造（エコ・コンパクトシティ）」
- ・集約型都市構造実現に向けた住民参加のもと都市計画のマスタープランに位置付ける。

○記念講演 元東北大学総長 西澤潤一氏

「都市の形成と産業」

- ・地方の発展の鍵は、各地方の地勢（形状、気候）を生かした街づくりを行うこと。
- ・地勢学を生かした新産業を興すことができれば、まだ地方は発展する可能性がある。まだ日本の各地には宝が眠っている。
- ・もう一つの地方発展の鍵は、人材育成にある。また昔からの歴史を再発見することも地方の発展に繋がる。

光通信の開発者であり、ミスター半導体とも呼ばれるなど多才な西澤氏の講演は、とてもユニークでした。

○部会（第3部会）

「地球環境問題に対応する都市交通の取り組み」

部会は3つの題目に分かれて行われました。地球環境問題でもっとも問題視される温暖化現象について、3市の対策と構想について報告がありました。

長野県上田市ではレンタサイクルを実施し、観光地を巡るとともに、環境にも配慮した取り組みについての報告がありました。

また、福井県福井市では公共交通網を充実させるために幹線バス路線を整備し、車から公共交通の転換を推進しています。そして、開催地になった仙台市では、分散するバス乗降場の集約や交通機関相互の乗り継ぎやすさの向上など、交通結節機能強化に向けた検討を行っています。



《開会式》北海道から沖縄まで、全国から約330名が集まりました。



《記念講演》光通信の開発者である西澤氏の講演は大変貴重な時間でした。



《部会》部会後は全体でディスカッションを行いました。



【2日目】

○現場調査「みちのく公園・名取・岩沼コース」

国営みちのく湖畔公園（川崎町）

国営みちのく杜の湖畔公園は昭和55年、全国で初めてのダム周辺環境整備事業として完成しました。全体敷地650haの広大な国立公園です。今年開園20周年を迎え、年利用者75万人、5月24日に1000万人を突破しました。平成17年に「ふるさと村」や平成18年に「自然体験学習エリア」をオープンするなど、さらなる集客を目指しています。



国営みちのく湖畔公園



ふるさと村

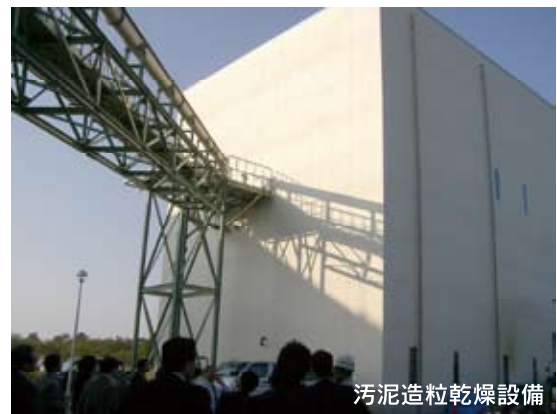
仙台空港，仙台空港アクセス鉄道 （名取市，岩沼市）

仙台空港までのアクセスは車，バスのみでしたが，東北本線名取駅より分岐する形で，平成19年3月にアクセス鉄道が開通しました。仙台駅からの時間が40分から17分に短縮されました。同駅ホームと空港ターミナルビルとの間は，距離が短くほとんど段差を通らずに往来できます。

また鉄道沿線には，仙台都市圏に期待される国際機能拠点として仙台空港臨空都市整備が行われました。なとりりんくうタウンは区画整理事業区域（約69.5ha）で少子高齢化にも対応したまちづくりを目指しています。

県南浄化センター（岩沼市）

県南浄化センターでは，浄化施設のほか有機汚泥を資源（バイオソリッド燃料）としてリサイクルする汚泥燃料化施設が稼働中です。公共下水道終末処理場および尿処理場から発生する脱水汚泥を，木チップを主燃料として造粒乾燥させてペレット状の固形燃料を生成し，それを製紙工場の石炭ボイラーの補助燃料として利用します。このような取組は日本で2ヶ所しかありません。



汚泥造粒乾燥設備

【終わりに】

都市計画全国大会に参加し，多様化するニーズと深刻化する少子高齢化，地球環境問題対策をどのようにするか。また，「エコ・コンパクトシティ」についての内容や，地方都市における先進的な取組を学ぶことができました。特に仙台空港の視察は，茨城空港開港を目前としているため，とても参考になり，集客のためのアクセスが重要であると痛感しました。最後に，この都市計画全国大会を通して他県の方々との意見・情報交換もすることができ，この2日間は大変有意義なものになりました。



仙台空港



仙台空港アクセス